

この国の未来を支える挑戦を。

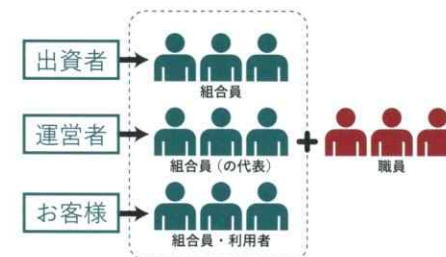
～JA共済ができること、目指すもの～

Spirit

いつでも起こりうる災害。
そのとき、JA共済にできること。

どこにでも、誰にでも降りかかる可能性のある災害。
たとえば、地震で大切な家族や家を失ってしまったとしたら……。
もしものとき、共済金をお支払いすることでその後の生活を支えることがJA共済の使命。
誰もが被害を受ける可能性のあることだからこそ、皆でお金を出し合って、誰もが保障を受けられるようにする。
「一人は万人のために、万人は一人のために」という「相互扶助（助け合い）」こそ、JA共済の事業理念です。

「相互扶助」こそJA共済の精神



JA共済の事業は企業による利益を目的としたものではなく、国や自治体が行う公共事業とも異なります。「相互扶助」の考え方に賛同する農業者や地域住民が自ら出資して組合員となり、ともに手を携えた“市民の事業”です。JA共済は、利益よりも組合員・利用者へ“安心”と“満足”を届けることを第一としています。



Life stage

変わり続ける人生。
そのすべてを支えるために。

人生におけるリスクは、一定ではありません。たとえば、自動車を買ったら事故のリスクが、家を建てたら火災や地震のリスクが、家族ができたなら家庭を守る責任が生まれる。

そんな、変化し続ける人生のすべてを支えるのが、共済という仕組み。生命保障・損害保障といった分類が先にあるのではなく、まず支えるべき人生がある。そのために必要な保障を、生命・損害のいずれの分野からも提供する。それがJA共済の考え方であり、共済ならではの大きな特徴です。

「保険」と「共済」には違いがある



生命保障と損害保障の垣根を越えた
「ひと・いえ・くるまの総合保障」

人々がお金を出し合い将来のリスクに備えるのは、共済も保険も同じ。ただし、保険会社は、生命保障と損害保障の両方を扱うことはできません。そこが、人生をトータルサポートする共済との違いです。



詳細へ

Place

備えることの大切さを
伝えることも、JA共済の使命。

共済は万が一の出来事の際に役に立つことが多く、日常生活を送る中で必要性を感じる機会は多くありません。潜在的なニーズに気付いてもらうため、全国各地で共済の必要性を伝え、「相互扶助の輪」を広げていくことも重要です。

そのために、JA共済は、地域の人々に最も身近なところでサービスを提供しているJAと連携し、全国約7,200ヶ所のJAの窓口からそれぞれの地域に密着した普及推進活動を企画・展開することで、安心を届けています。

くらしに寄り添った地域貢献活動



JA共済は共済事業だけでなく、交通事故防止のための交通安全教室や、書道・交通安全ポスターコンクールの実施、災害救援のための災害シートの無償配布など、地域との絆を深め、健康で安心してくらすための豊かな地域社会づくりにも貢献しています。



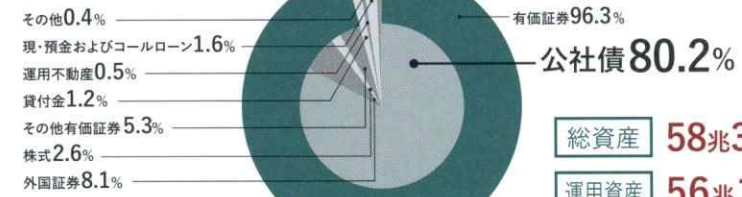
詳細へ

Investment

将来の”万が一”の際の
お支払いに備えるために。

JA共済では、共済金等のお支払いを将来にわたって確
実に行っていくために、ご契約者の方々からお預かりし
ている大切な共済掛金を運用しています。
資産を安全に増やすために、長期安定的な運用を主体と
する一方、収益性向上を目指す運用にも取り組んでいます。
長期安定的な運用の主体は公社債。収益性向上を目指す
運用の主体には、国内外の株式や外貨債券など。日本だ
けでなく世界のマーケットをも視野に入れる。そんな仕
事もJA共済にはあるのです。

世界的な機関投資家としての顔



総資産 58兆363億円
運用資産 56兆1,484億円

JA共済が保有する総資産は、日本の国家予算の約半分に相当。実は世界有数の機関投資家でもあり、投資先企業の方や外部のファンドマネージャーなど、多様な人と出会い、成長する機会に恵まれています。

※令和2年度末時点



詳細へ

数字で見るJA共済ができること、目指すもの

これらの数字の背景には、JA共済をご利用いただいている方々からの、信頼と期待が込められています。私たちの仕事は、その大きな信頼と期待に応え、日本中の人々の人生を守っていくことに他なりません。

人々の不安を安心に変える

保有契約高

238兆

 7,559 億円

保有契約高とは、ご契約いただいている保障額の合計のことであり、保険会社等の事業規模を表す最も一般的な指標のひとつ。JA共済の保有契約高は世界でも指折りの規模です。

生命総合共済 加入件数 **ひと 2,192万件**
建物更生共済 加入件数 **いえ 966万件**
自動車共済 加入件数 **くるま 826万件**

共済掛金

4兆

 6,203 億円

共済掛金とは、共済のご契約者から払い込んでいただくお金のこと。保険会社で言うと「保険料」に相当します。ご契約者一人ひとりから託された大切な共済掛金を万が一の際に困っている方のために活かす。その懸け橋となることが、私たちの仕事です。

新契約高

19兆

 3,912 億円

新契約高とは、1年間で新たにご契約いただいた保障額の合計のこと。JA共済の新契約高は日本でトップクラス。私たちはこれからも、信頼と期待に応えるべく、新たな保障やサービスを生み出すための挑戦を続けていかななくてはなりません。

共済金支払額

3兆

 8,804 億円

万が一の際、困っている方の生活再建のために、どれだけ共済金をお役に立てただけか。ご契約者への最大奉仕を目的とするJA共済にとっては、それがすべてです。JA共済は過去の多くの災害において、全損害保険会社の支払額の合計に匹敵する金額をお支払いしてきた実績があります。

大規模災害時の共済金の支払実績（いへの保障）

発生年・災害	JA共済	全損保合計
1995年 阪神・淡路大震災	1,188億円	783億円
1999年 台風18号	638億円	2,847億円
2004年 台風18号	1,083億円	3,564億円
2004年 新潟県中越地震	773億円	149億円
2011年 東日本大震災	9,375億円	1兆3,241億円
2016年 熊本地震	1,486億円	3,859億円

世界的な機関投資家として資産を運用

総資産

58兆

 363 億円

JA共済が保有する総資産は、日本の国家予算の半分ほどに相当します。このうち、50兆円以上もの金額を国債・株式・不動産などにより運用しており、世界有数の機関投資家として、経済に大きな影響を与えています。



地域に根付き、地域とともに歩む

JAの窓口数

約 7,200

 ケ所

JA共済連で開発した保障を地域の方々へご提供するとともに、ご契約後のフォロー活動を行うのは、日本全国にあるJAの窓口です。JA共済は、日本中どこでも保障の相談ができるネットワークを構築し、地域の人々にとって最も身近なところで事業を展開しています。



※保有契約高、共済掛金（年間）、共済金支払額（年間）、新契約高、総資産、JAの窓口数：令和2年度末時点



全国共済農業協同組合連合会 (JA 共済連)
〒102-8630 東京都千代田区平河町2-7-9 JA 共済ビル
TEL: 03-5215-9194
